

令和5年度当初予算案

資料1



令和5年2月17日

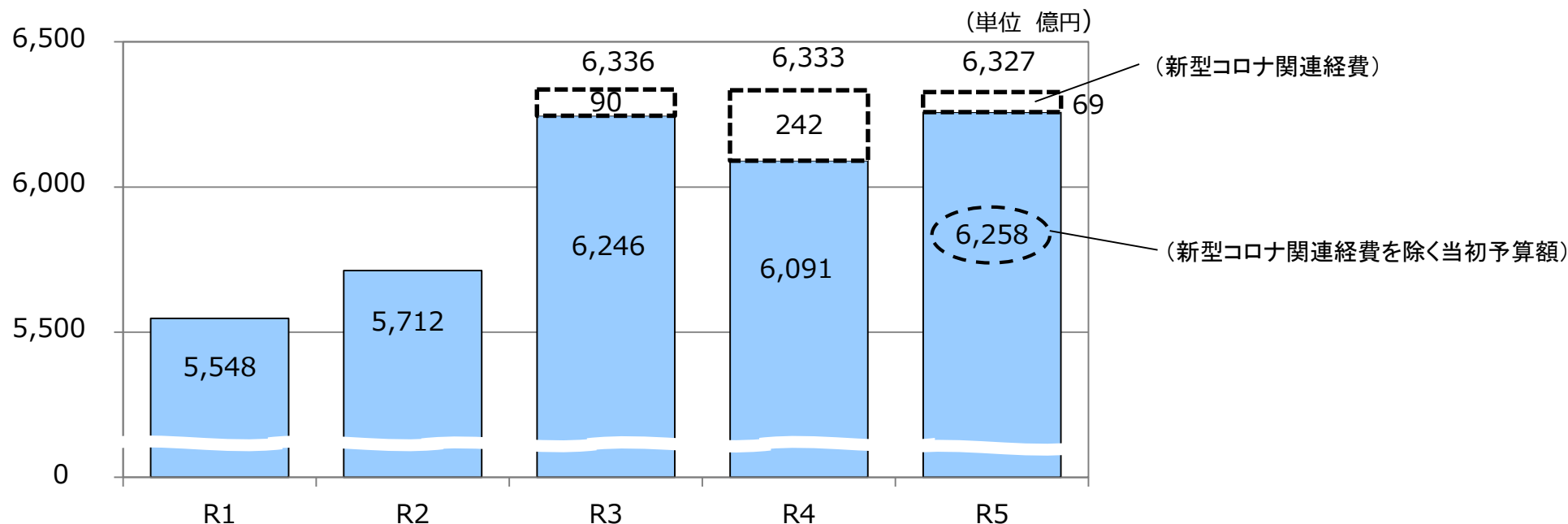
予算規模など

令和5年度一般会計当初予算額 **6,326億5,505万円**

併せて令和4年度2月補正予算に計上する「エネルギー価格・物価高騰対策」などを含めると、

6,364億3,132万円

➡ 新型コロナ関連経費（検査・医療提供体制、ワクチン接種など※）を除くと、**過去最大**の規模



※新型コロナについて、「5類」移行後(5月8日～)の公費負担など国の方針が未定であるため、当初予算では、基本的に第1四半期(3ヵ月)分のみ計上

当初予算のポイント（1）

1. 県民の暮らしを守る <686億円>

※金額には、関連する2月補正予算額を含む。

○エネルギー価格・物価高騰対策

令和4度の補正予算（6月・9月・11月）に続き、必要な生活者支援・事業者支援に取り組む。

○新型コロナ関連

検査・医療提供体制の確保、ワクチン接種の促進など

2. こども政策をはじめ「未来づくり」に積極投資(新規・重点経費) < 96 億円> (R④85億円)

【主な施策の柱】

○少子化対策・子育て環境の充実（重点政策①）

「こどもまんなか共生社会」の実現や、若年(女性)層の本県への転入・定着を目指す。

○ウイズコロナの経済活性化（重点政策②）

スタートアップ支援や、北陸新幹線の敦賀開業に向けた取り組みなど

○DXやカーボンニュートラルの推進（重点政策④・⑥）

県の基本方針や戦略を踏まえ、民間部門と公共部門が一体となって推進

○人への投資（重点政策⑦）

生産性の向上等に資するリスキリングへの支援、DX人材の育成など

➡ **県民のウェルビーイングの向上に資する重点施策を着実に推進**

当初予算のポイント（2）

3. 既存事業の抜本的見直し・再構築

令和4年度当初予算に続き、長年にわたり継続している事業などは、県民や事業者、関係団体の現場の声に加え、デジタル技術の進展など現下の社会情勢の変化を踏まえ、**事業の統廃合を含め、抜本的に見直し**

➡ 令和5年度当初予算における見直し額は、**事業費ベースで10.5億円**（R④18.2億円）

【主な取組み事例】

（1）官民協働事業レビューを踏まえた「県民目線」での見直し

○敬老祝事業の見直し（厚生部）

- ・88歳の方への祝状の贈呈等を取りやめる一方、新たに、県全体として高齢者への敬意と感謝の意を表す新聞広告を掲載する。

○「富山のさかな・水産加工品」ブランド化推進事業の見直し（農林水産部）

- ・「シーフードショー」への出展を2年に1回とし、出展者や来場者へのフォローアップなどを充実する。

○「スポーツフェスタ」の見直し（生活環境文化部）

- ・スポーツ人口の拡大効果が見込みにくい一部の「部門」を廃止する一方、新たに、スポーツ人口を掘り起こすための事業に見直し

○富山県推奨とやまブランド推進事業の見直し（知事政策局）

- ・県「総合計画」に掲げる目標数の達成により、新規募集は停止
- ・今後は、新たに構築する「オウンドメディア」やSNSを活用し、本県の認知度向上・イメージアップを図る。

（2）「伝える事業」の強化

○企業情報サイトを統合・リニューアル（商工労働部）

- ・既存の企業情報検索サイト（企業ナビとやま、とやまUターンガイド、インターンシップナビとやま）を統合し、アクセシビリティを強化するとともに、新たに、SNSによるプッシュ型の情報発信などに取り組み、本県への「UIターン」を一層促進

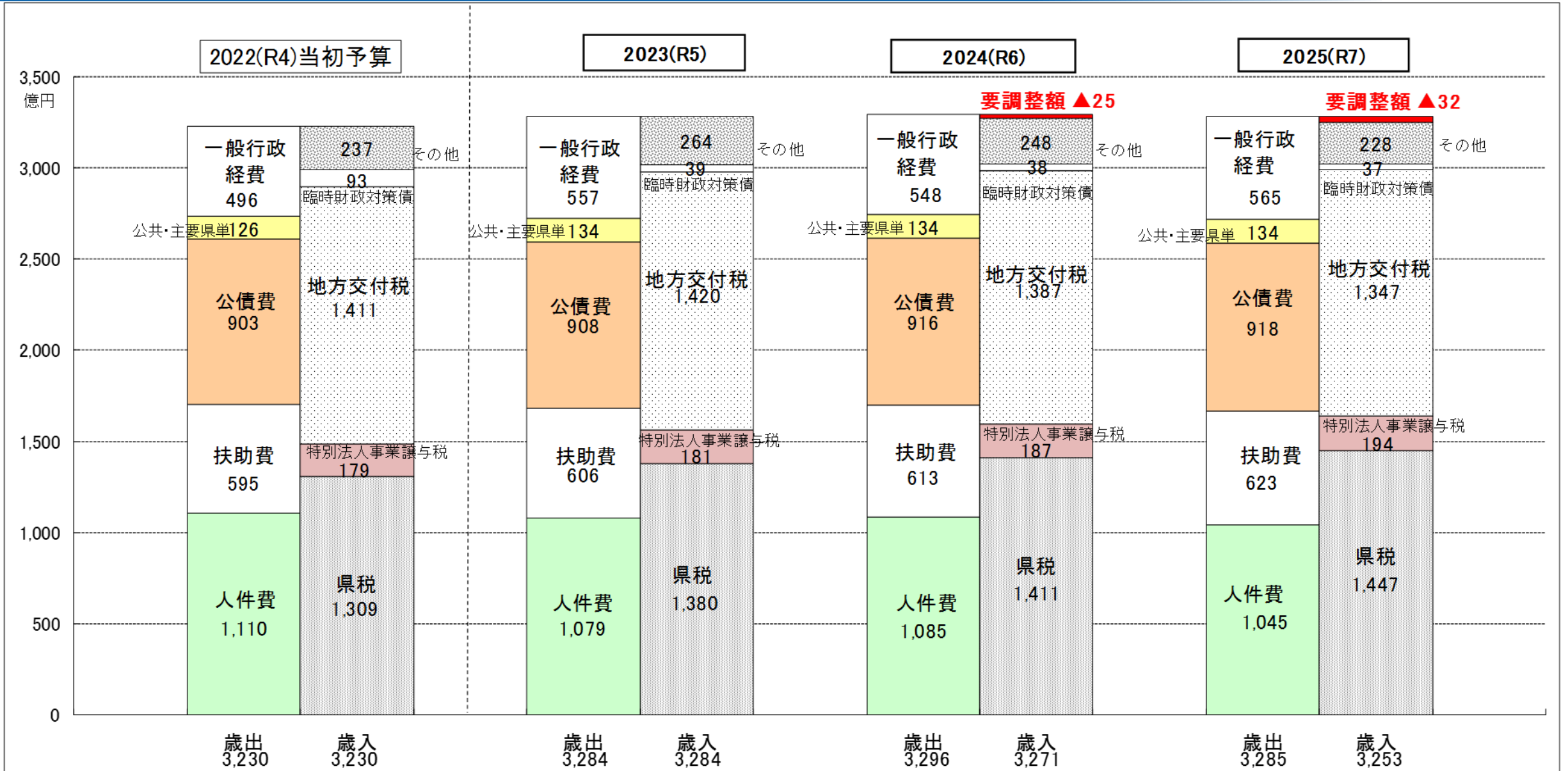
（3）その他の見直し

○県内で活動するアーティストと、派遣を希望する県民・団体とのマッチング事業として改善（再構築）（生活環境文化部）

○AI-OCR・RPAを活用し、会計事務を自動化（出納局）

（参考）中期的な財政見通し

※令和5年2月試算、一般財源ベース



(注) 端数処理の関係で合計が一致しない場合がある。県税は、都道府県間清算及び市町村交付金交付後の実質税収ベース。

（参考）県債残高の見通し

県債残高は、R4末～R5末にかけて、引き続き減少する見通し

➡ R5末の県債残高見込みは、1兆1,345億円（R4末見込み：1兆1,756億円）

